

## 東京キワニスクラブ



### Activity Report

# 活動レポート

Vol.10 / 2011.2 発行

## オレンジリボンたすきリレーへの参加 2010.10.31

10月31日10時東京タワーのビルの一階に東京キワニスの会員と協力企業の社員十数名のボランティアが集まって児童虐待防止のピラ配りに参加しました。

当日は天気心配されたがピラを配る頃は太陽も顔を出し、穏やかな天気の下、東京タワーを訪れる観光客にピラを配りました。時節柄海外からの観光客も多く彼らも気安くピラを受け取ってくれ、説明もよく聞いてくれました。彼らの中には趣旨に賛同して寄付をしたいと言ってくれる人もいて、こうした運動に関心が高いことを知りました。また、オレンジリボン、マスクやティッシュなどのノベルティのお陰もあって思ったより沢山の人がピラを受け取ってくれたのが嬉しく達成感も高いものがありました。配っている最中にオレンジリボンたすきリレーのランナー達が到着し皆で激励しました。ゆる

キャラの縫いぐるみも子ども達に愛嬌を振りまき、その場を和やかなものとしていました。以前は自分たちが児童虐待をしているのかと喰ってかかる人もあったということで配り始めはやや心配したが、当日はそんな人もなく杞憂に終わってほっとしました。

日本の経済・社会には永らく閉塞感がただよっており、残念ながら児童虐待も増加の傾向にあります。これに歯止めをかけることが社会的な重要課題のひとつであり、こうした地道なキャンペーンがその減少に少しでも役立てば参加したものとしては幸いです。

(事務局長 吉田 浩二)



## 「緑の東京募金への寄付」感謝状を拝受 2011.1.28

1月28日(金)緑の東京募金の校庭芝生化の事業に147万円寄付したことに對して東京都から当クラブの伊藤会長に感謝状が贈呈されました。この寄付金は昨年及び一昨年の環境問題改善をテーマにしたファミリーデーのメルシー募金やバザー、オークションなどの収益金を当てたものです。感謝状贈呈の式典は東京都庁第一庁舎7階ホールで石原東京都知事、村山副

知事、大久保「緑の東京募金実行委員長」、安藤忠雄「海の森事業委員長」出席の下、とり行なわれました。先ず石原

知事から「環境問題への取組みは世界の重要課題であり、東京は率先して取り組んでいる。皆さんの協力に

感謝するとともに、これからもよろしくお願ひしたい」と感謝の辞が述べられました。経団連自然保護協議会の会長で緑の東京募金実行委員長の久保尚武氏からは「厳しい経済情勢にも拘らず寄付が増加した。国民の寄付に対する目線が変わって来ている。民間からの寄付の目標8億円に対して既に9割の7億2千万円が集まった。企業も社員と一体となった募金活動を展開している。個人の方達も色々な形で寄付してくれた。大変ありがたい。」と挨拶がありました。海の森事業委員長である建築家の安藤忠雄氏からは「明治神宮の森と同じ規模の100haの



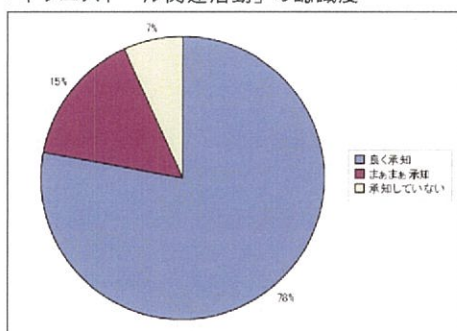
森を東京湾の埋立地を作る計画は都の強力なリーダーシップと都民の協力が相俟って順調に進んでいる。10年後には6－7mの100万本の樹木が育って魅力ある環境都市東京の一つのシンボルとなろう」と挨拶されました。感謝状を受け取った48の団体と個人を代表してKDDIが「携帯電話のマニュアルを回収してリサイクル紙を作る取り組みをしている。今後環境問題に対す

る対応を発展させていく」と挨拶をしました。当クラブの法人メンバー第1号の株式会社東芝は知事からの感謝状を受けていました。マスコミも多数参加する大規模な式典で環境問題に対する都の積極的な施政が感じられました。

(事務局長 吉田 浩二)

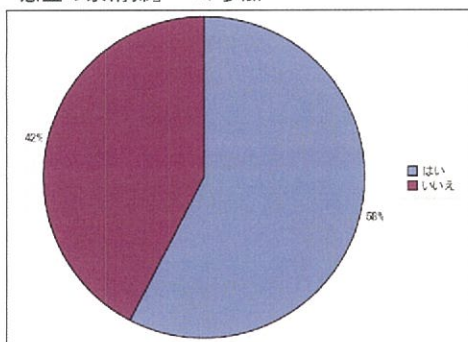
## ボランティア活動に関するアンケート調査結果について

「キワニスドール関連活動」の認識度



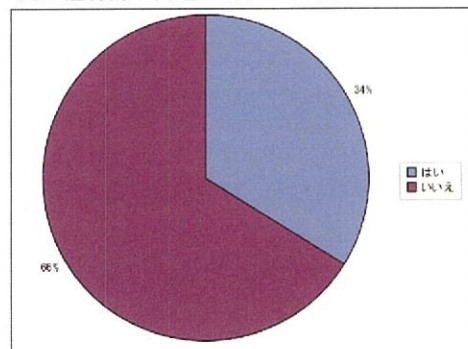
良く承知	78%	46
まあまあ承知	15%	9
承知していない	7%	4
合計	100%	59

「慰霊の泉清掃」への参加



はい	58%	34
いいえ	42%	25
合計	100%	59

「児童虐待防止関連運動」への参加



はい	34%	20
いいえ	66%	39
合計	100%	59

昨年7月、例会出席のみなさんへアンケートをお願いし、その場で回答をして頂きました。

アンケート実施の趣旨は、ボランティア活動に対する考え方について率直なご意見を伺い、今後の活動に反映して行こうとするものです。

回答者は59名、その集約結果は次の通りです。

1. ボランティア活動への参加意欲は非常に高く、直接・間接の形はともあれ、100%が「参加する」と回答、
2. 当クラブのボランティア活動委員会が今年度活動の柱として進めている3項目について、会員の参加状況についての質問では、

- ①「キワニスドール関連活動」についての周知度は、「良く承知している、まあまあ承知している」合わせて93%、また実際の活動に「参加している」が64%
  - ②「靖国神社慰霊の泉清掃活動」へ「参加している」は58%
  - ③「児童虐待防止関連運動」へ「参加している」は34%
- でした。

またこの結果と同時に、参加出来ない理由や意見・要望のコメントからは「時間が無い、タイミングが合わない、健康面で難しい、勝手が判らず参加しにくい、など様々な事情が汲み取れました。

3. 最後に会員が今後取り組んでみたいボランティア活動のアイデアを聞いたところ、具体的な分野では、

- ①自然保護、②朗読・読書会、③チャイルド・スポンサーシップ、里親、
- が上位となっています。

簡単なアンケート項目にも拘わらず回答結果からはっきり見えたものは、会員の実情に合わせた多様な参加スタイルが必要である、ということでした。

今まで単に感覚的な捉え方だけに止まって居た重要な課題を改めて認識出来たことが、今回のアンケート調査の一番の成果と考えています。

キワニスクラブの精神「Young Children Priority One」に則り、息の永い奉仕活動を確実に推進して行くため、会員のみならずボランティア活動に関心を持つ一般の方々にも一層参加のしやすい環境作りに向け、新しい活動の実施やきめ細かな周知・理解活動、また実施時の工夫・改善などを進めてまいります。

(ボランティア活動委員長 松本 一紀)

## 授業でキワニスドールをつくる!

2010. 9. 30 10. 7 11. 15 11. 29

様々な場でそして様々な方にドールを作って頂いて居ますが、高校の選択授業の一環として取り組んだ2校をご紹介します。

両校とも、ドール製作作業の全ての工程をこなして立派な完成品に仕上げ、生徒のみなさんの優しい心を子どもたちへと託してくれました。

当クラブから星、松本2名でお邪魔しました。

・東京家政学院中学高等学校

2010年9月30日と10月7日の2回(各100分)、例年どおり「保育演習」として実施され、中野先生と生徒16名の参加です。

注：当日の授業風景について、雑誌「Netty Land」に掲載されています。

・大妻中野高校

2010年11月15日と29日の2クール(各2時間)、ドール作り終了後に生徒との懇談も予定に入れました。佐藤先生と参加生徒19名です。

なお、当校は選択授業として5年前にも実施され、2回目とのこと。

生徒たちは非常にスキルも高く、2回の授業で3個仕上げた生徒もいた程です。また、キワニスクラブの活動の趣旨や現在私たちが質の良いドール、云わば病気と闘っている子どもたちにとって「抱き心地の良い」ドールづくりに取り組んでいることなど、私たちがドールに寄せる思いを良く理解して、丁寧な人形作りに取り組んでくれました。中野先生や佐藤先生のご薫陶の宜しきを強く感じた次第です。

授業の進め方は両校共おおむね同じで、

1日目、「キワニスドールのつくり方」DVDを視聴して特に注意する点を再確認、スタート、まずは型紙で布に鉛筆で縁どりしてから、ミシンがけ、そして縁どりに沿って裁断、ひっくり返してからアイロンがけへと進

みます。

最初は賑やかな生徒たちも、次第に無口になり真剣な様子となって来ます。裁断にしてもミシン掛けにしても、ミスをする手戻りが大変だということが判ったのでしょうか。3個分完了した生徒もいて、若干の個人差は出たものの、予定通り第1日目はここで終了です。

2日目は綿詰めから始まりました。綿を出来るだけ細かくちぎる、手足や頭部の隅をしっかりと詰める、ことがポイントになる旨、もう一度呼びかけてから取り掛かりました。30分ほど経つと順次出来上がって来ます。この段階で当クラブのドールの匠、星会員の仕上がりチェックが入り、「合格!」、「手直し!」の宣告(?)の都度、教室内に生徒の嬌声が飛び交い、どうやら余裕が出て来たようです。

そして手縫いによる最終工程となり、その間再び無口な生徒に逆戻りして一心不乱の針運び、さすが被服科の勉強を経験した生徒もいて、僅かのアドバイスで素晴らしい人形を完成してくれました。

残念ながら、大妻中野高校での時間内での懇談は出来ませんでした。両校の先生のご好意で参加した生徒の感想文を頂きました。

- ・子どもたちの為に自ら人形を作れたことが良い経験になった、
- ・子どもたちの手に渡ると思うと緊張したが、出来上がったら愛着が湧いた、
- ・不器用だけど気持ちだけは込めました、
- ・大学受験後、落ち着いたらボランティアをしてみたい、などなど。

初体験のドールづくりと云うボランティア活動を通じ、彼女たちが人の笑顔に役立つ行いを成したことへの満足感を少しでも味わって貰えたとしたら大変嬉しく思いますし、また彼女たちの心にボランティアについての意識の種を一粒でも蒔くことが出来たとしたら、是非未来に大きく開いて欲しいと、心から願うものです。

(ボランティア活動委員長 松本 一紀)



▲これがキワニスドール

▲型紙

▲布の準備をするキワニスクラブの方と中野先生

▲キワニスのタグも合わせて縫うことの確認中

▲少しずつ形になってきた!

▲もう少しで形ができます

▲協力して裁断の作戦会議

▲真剣に縫い合わせます

◀「Netty Land」  
2010年11月号  
p53より

## キワニスドールをつくる会

ボランティア活動委員会とKファミリー委員会が中心になり、会員・パートナーの参加を得て多くの看護専門学校や大学、高校などを訪問し、ボランティア活動グループと連携しながら「キワニスドールをつくる会」を開催しています。写真でその一部をご紹介します。

(広報委員長 古屋俊彦)

・ 広尾看護専門学校

(2010.10/16)

・ 板橋看護専門学校

(2010.10/30)

・ 荏原看護専門学校 (2010.10/13)

・ 学習院女子部 (2010.12/14)

・ 田園調布学園 (2011.1/22)



▲ 広尾看護専門学校



▲ 板橋看護専門学校



▲ 荏原看護専門学校



▲ 田園調布学園



小児病棟で  
子どもたちを見守る  
小さな天使

「キワニスドールをつくる会」  
のお誘い

● 田園調布学園 (2011. 6/18)

## 平成 23 年 新年互礼会 2011. 1. 7

1月7日(金)午後5時から、恒例の新年互礼会が銀座7丁目のサッポロライオンクラシックホールで開催されました。当日東京地方は厳しい冷え込みに見舞われましたが、皆さんお元気に、会員、パートナー合わせて114名の方々が参加される盛況でした。

伊藤会長の新年のご挨拶のあと、年男の皆さんによる鏡開き、そして最年長の年男である安田和義さん(昭和2年生まれ)の力強いご発声で乾杯して会が始まりました。

今年は例年以上にパートナーの方々の方が多かったこともあって、大変に和やかな新春の歓談となりました。会場のあちこちで賑やかな人の輪ができ、恒例の福引が始まるころには会は大いに盛り上がり、外の寒さを吹き飛ばす熱気でした。干支の兎と東京キワニスクラブの名を刻印した特製のマスで樽酒を楽しまれる方も



多く、鏡開きの樽は見事にすべて飲み干されました。

楽しく歓談するうちに2時間あまりがあっという間に過ぎ、中締めはキワニスの女性パワーを代表する堀井副会長。はねるウサギ年への期待を胸に散会となりました。

(事業企画委員長 塚越 孝三)

## ～ボランティア活動に参加して～

### ● なまけもの会員のドールづくり参加 2010. 11. 13



数年前の新入会員オリエンテーションに出席した際、キワニスドールのつくり方を教えていただいたものの、その後のドールづくりには熱意を欠く会員であったことを白状しなければなりません。ドールの意義についての認識不足とボランティア活動に参加することへの「照れ」のようなものがあつたためでしょうか。

それでも昨年4月の第二回ドール・シンポジウムに出席してみたところ、病気のこどもたちがキワニスドールに慰められ励まされていることなどを、はじめて体系的に教えられた次第です。その後は「つくる会」への案内も目に通すようにはなりましたが、週末に横浜郊外からわざわざ都心部まで出かけて行くことには、なお腰が重いまでした。

昨年末に、しかし、いくつかの看護学校での「つくる会」の案内が目にとまり、そのうち東急沿線の1校は自宅からもそう遠くないので、ものは試しとばかりに初めて参加してみました。松本ボランティア委員長、菅野会員ご夫妻はじめ練達の参加者に混じり、荏原看護学校の生徒さんたちや学園祭見物の若者とともに、見よう見まねでドールづくりをしました。こちらも数少ない経験しかなかったのですが、若い人

たちに「こうした方がいいですよ」と(上から目線で?) 多少は教えてあげられたことも、(内心は冷や汗をかきながらですが) 私にとっては新鮮な体験でした。我々の年代からは一瞥したところ顰蹙をかいそうな格好の若者も、真剣に人形をこしらえている姿を見ると、外見だけで中身を判断してはいけないうあ、と反省させられました。あつという間の二時間でしたが、(その後の学園祭会場での昼食も含めて) 充実した半日をすごせたことから、これからはまた気が向いたら(失礼!) ときおりは参加してみようかと思われました。

蛇足ながら、東京都立荏原看護専門学校は、看護師を養成するため都が設立した三年制専修学校七校のひとつで、11月13日(土)の当日は学校祭「白灯祭」行事の一環としてドールづくりが催されたものでした。明るく穏やかで誠実な校風を謳っていますが、北海道から沖縄まで全国各地から集まった生徒さんたちのたたずまいや校内の雰囲気からも、そのように感じられました。なお、昨秋から年初にかけて広尾、板橋、荏原の各看護専門学校と学習院女子部、田園調布学園でキワニスドールをつくる会が催されたそうです。

熱心にボランティア奉仕されている会員がたにはまことに申し訳ないのですが、当方のように積極性に欠ける怠惰な人間としては、これからは片手間でできるささやかな社会貢献を、三日坊主にならないよう細く長く続けていきたいものです。

(国際委員長 広畑 史朗)

### ● 「慰霊の泉」清掃オリエンテーション 2010. 12. 9

靖国神社境内にある「慰霊の泉一戦没者に水を捧げる母の像」は東京キワニスクラブが明治百年事業の一環として昭和42年に献納したのですが、これまで有志会員が折々周辺を含めた清掃を行ってまいりました。

このたび最近の新入会員の方々に清掃方法等をご理解いただくことを目的として平成22年12月9日慰霊の泉清掃オリエンテーションの会を開催いたしました。

当日は無風、快晴、温暖という絶好の清掃日和で10名の会員の皆様にお集まりいただきました。猛暑が秋まで続いた影響で落葉が遅れ公孫樹、桜等の枯れ葉が相当多くたまっておりなかなかやりがいのある状況でした。泉の中の枯れ葉引き上げ、周辺

の落ち葉清掃など思い思いに分担し1時間余りの作業でした。この間、若い方も含め何人



もの人が慰霊の泉に立ち寄り銘板の説明を読んでおられたことが印象に残りました。参加者一同清掃により見違えるほどにきれいに変わった慰霊の泉を前に清々しい思いに浸り靖国神社を後にいたしました。(ボランティア活動 副委員長 高坂 和夫)

## ～最近の広報活動（記事掲載、ラジオ、インターネットなど）～

### ● 北里前会長がラジオ （ラジオ NIKKEI）出演 2011. 2. 12



北里前会長がラジオ NIKKEI に出演しました。

2月12日（土）のラジオ NIKKEI の投資家への情報提供・インタビュー

番組「夢企業探訪」（毎週土曜 9 時～9 時 30 分）に 30 分間出演しました。

内容は主として、北里さんが会長を務められる BT の

事業戦略やグローバルビジネスの動きやこれからの IT の世界の展望が中心ですが、後半部分でキワニスクラブの活動について聞かれ、その生い立ち、日本でのクラブにおける日常の会員活動、キワニスドール等による子ども支援の活動、これからの Eliminate Project による破傷風撲滅運動の計画などについても熱く語られました。

放送内容は、パソコン、携帯等で、聞くことができます。次の Website でラジオ NIKKEI 「夢企業探訪」30 分間の放送内容を聞くことができます。

<http://market.radionikkei.jp/yume/>

是非ご視聴ください。

（広報委員長 古屋 俊彦）

### ● 「Netty Land」にキワニスドール 作成の保育演習の様子が掲載（2010 年 11 月号）

東京家政学院と大妻中野高校では選択授業の一環としてキワニスドール作りが行われ、星会員（キワニスドール・シニアアドバイザー）と松本会員（ボランティア活動委員長）が参加しました。

その様子はこの活動レポートの 3 ページの「授業でキワニスドールをつくる！」で紹介されていますが、東京家政学院の高校三年生の「保育演習」の様子が「Netty Land」に掲載されたものです。

キワニスドール作成について型紙からの縁取り、ミシン掛け、アイロンがけ、綿詰めから完成までの作業の様子が写真で紹介掲載されました。

キワニスクラブのことも言及されており、今後キワニスドールが他の学校の授業の中にも取り入れられて



行くことを期待したいと思います。

※「Netty land」は私立・国立中高一貫の魅力を紹介するフリーマガジンです。

（広報委員長 古屋 俊彦）

### ● 「日本経済新聞（夕刊）」にキワニスドールの写真掲載 2010. 11. 25

2010 年 11 月 25 日の日本経済新聞（夕刊）の医療（らいふプラス）の特集ページに「子供の心どうケア」と題して親のがん発病を知った多くの子供が誤った自責の念や過度の不安を抱えるなどの心の傷を抱えているとの調査結果があるが、医師も患者本人も治療に手一杯

で家族にまで気が回らないことが多い実態を指摘している。

こうしたことから厚生労働省では子供のためのケアプログラムを作り始めた動きなどを紹介した内容で、その中に写真でプログラムの一つに「がん治療につい



て人形を使って学ぶ」としてキワニスドールが掲載されました。

キワニスドールの利用のされ方の新しい方向を示しているように感じられました。

(広報委員長 古屋 俊彦)

## ● 東京ベイ・浦安市川医療センターの「スタッフ募集ビデオ」にキワニスドールが登場

東京ベイ・浦安市川医療センターでは来年四月に新病院が開院される予定ですが、そのためのスタッフ募集ビデオを作製しました。

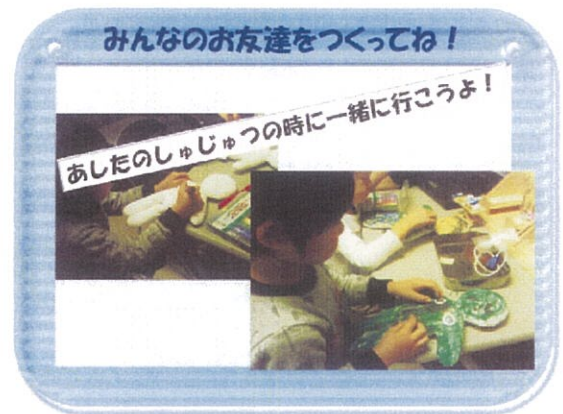
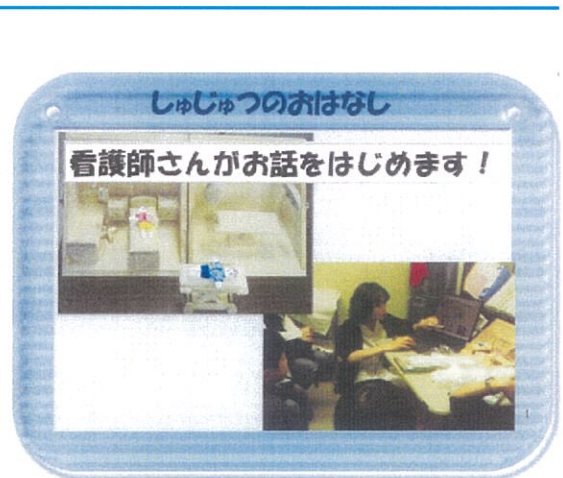
その中でキワニスドールを使った実際の画像で子供たちの心の支えとして実際に使われていることが紹介されています。

こういった場面でキワニスドールが紹介されていることは大変心強く感じる次第です。

同センター看護部の香西ひろみさんから連絡いただきました。下記にアクセスするとスタッフ募集ビデオを視聴できます。

<http://www.youtube.com/watch?v=zL2CJnI1Sd0>

(広報委員長 古屋 俊彦)



## ● 学習院女子中等科・高等科の同窓会会報にキワニスドールについて寄稿（堀井副会長）

学習院女子中等科・高等科の同窓会「常盤会」の会報「ふかみどり」に「キワニスドールをご存知ですか？」と題して、堀井副会長が寄稿されました。

キワニスドールの紹介から、いろいろな場面での使われ方、自分の作成体験をはじめキワニスクラブの取り組み状況、これまでの2回にわたるキワニスドール・シンポジウムなどについても触れ、ボランティア団体としてのキワニスクラブそのものについても読まれた方々の理解を得ていただくことに大いに資しているものと思います。

(広報委員長 古屋 俊彦)



# ELIMINATE

Kiwanis eliminating maternal/neonatal tetanus



## ～「Eliminate Project」の始動に向けて～

今年はいよいよ国際キワニスの第2次世界的奉仕プロジェクト“ELIMINATE project”が本格化します。7月のジュネーブにおける世界大会までに国際本部はパートナーとなるユニセフ等との協議、調整を基に包括的にして具体的な運動方針、戦略を策定する予定です。日本地区では昨年秋の京都大会における4項目の決議の一つに、「国際キワニスの第2次 Worldwide Service Project【破傷風から世界中の母と子を守ろう】運動に積極的に参加しよう」を掲げ、キワニス日本財団と共に強力な支援を行う準備に入っております。

このキャンペーンの目的は世界39ヶ国で今でも見られる妊産婦（maternal）新生児（neonatal）破傷風（tetanus 注）を撲滅するため、1億2千9百万人の母親にワクチンを接種したり衛生的出産環境を整備するのに要する資金2億4千万ドルのうち1億1千万ドルを今後5年の間に全キワニアンで調達しようというものです。残りの必要資金は各国政府やユニセフが提供することになっております。

（注）本部では上記3つ単語の頭文字をとってMNTと略称するとともに、その3文字を撲滅という意味のEliMiNaTeに潜ませている。なお、eliminateはeradicateと異なり、100パーセント根絶するのではなく、出生1000例につきMNT発症が1例以下となることを狙っている。

今回ユニセフと提携する理由は、それが1999年以降既に1億9千6百万ドルを使って18カ国で破傷風を撲滅した実績があり、また世界の貧しい隔絶された地域で活動するスタッフを擁し、強力なサプライチェーンがあるからです。

資金の具体的な使途としては、母親1人当たり1.8ドルのワクチン（1回60セント分を3回）代が中心になりますが、投与する地元の人達の訓練、注射器等の安全な輸送・保管、清潔な出産に関する母親の教育、啓蒙活動などいろいろな関連費用が含まれます。

1億1千万ドルを今後どのように調達していくかについては、目下コンサルタント会社（Community Counselling Service、在ニューヨーク）の協力、助言を得ながら本部で計画を練っており、いずれ全地域の掌握・調整に当たる組織として、アメリカ、アジア、欧州から各3名、ラテンアメリカ、カナダから各1名選出した委員で構成する国際委員会を設置し、別途地区毎に選ぶことになるプロジェクト委員長と協議しながら地域・地区別の戦略やターゲット金額等を検討するという方策が採られる模様です。

今回キャンペーンではインターネットを活用した資金調達のアイデアが導入されていることが1つの特徴で、キワニスの外部にいる人達にも広くPRするとともに、それを通じた寄付のルートを提供しております。従って、このプロジェクトを通してキワニス活動の知名度が一段と高まり、メンバー増強、クラブ新設に貢献することも期待されております。

東京キワニスクラブの各位におかれましても、本プロジェクトの趣旨を十分ご理解いただき、是非とも積極的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

（国際キワニス日本地区事務総長 秋山 誠一）



◀「事前調査会」の様子  
（2010年12月10日）



## 今後の予定

- ASPAC マラッカ大会 (2011年3月10日～12日)
- 靖国神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拜 (2011年3月29日)
- 「キワニスドール・シンポジウム」の開催 (2011年5月14日)
- 国際キワニス年次総会ジュネーブ大会 (2011年7月7日～10日)
- キワニス社会公益賞贈呈式 (2011年7月予定)

## 「第3回キワニスドール・シンポジウム開催のお知らせ」

2009年から開催しているキワニスドール・シンポジウムは昨年も約280名の参加を得て会員とドールを使って下さっている医師・看護師の情報の共有化を目的に開催しました。

第一回、第二回の成功をふまえ今年も引き続き「キワニスワンデー」の一環としてシンポジウムを開催することが決まりました。

今回のシンポジウムは

- ①キワニスドールが病気の小児の治療にいかに関与しているかを医師、看護師の発表をとおして、会員、製作ボランティアに実感していただく
  - ②キワニスドールの先進的な活用例を医師、看護師が共有することで、小児科医療発展に役立たせていただく
- ことを目的としています。

日時、場所は以下のとおりです。

日 時：2011年5月14日(土)  
午後1時～5時  
場 所：伊藤忠商事本社 10階会議室  
主 催：(社)東京キワニスクラブ  
横浜キワニスクラブ  
埼玉キワニスクラブ  
参加費：無料  
お申込み：e-mail：tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp  
または FAX：03-5256-0080

### 第3回 キワニスドール・シンポジウム

子どもたちとキワニスクラブをつなぐ小さな天使

日時：2011年5月14日(土) 13:00～17:00  
場 所：伊藤忠商事本社 / 10階会議室



Kiwanis  
THE INTERNATIONAL  
FRATERNITY OF LAY  
MEN

【主催】(社)東京キワニスクラブ、横浜キワニスクラブ、埼玉キワニスクラブ

お問い合わせ：TEL 03-5256-4567

キワニスドールを作って下さる方々、  
使って下さる方々が一堂に会して、  
ドールについて熱く語ります。  
ぜひご参加ください。

### ▼昨年のキワニスドール・シンポジウムの様子



## キワニスドールの使い方

キワニスドール（キワニスクラブで製作した人形）は、病院で若い患者さんに、これからどんな治療をしていくのか説明するときなどにも使われます。傷口の縫合や、酸素マスクを使用しなければならないような場合、お子さんは驚き緊張して怯えてしまいますが、キワニスドールを使って説明されると、これから受ける治療の内容がよく判って、怖さや不安が軽減されるそうです。

子ども達はキワニスドールに注射をしたり、時にはお医者さん・看護師さんに教えて貰いながら手術の真似をしたりして、キワニスドール相手の「ごっこ」遊びをしています。人形を身代わりにこれから受ける

治療を体験させると、子ども達の恐怖が和らぎ、治療を受け入れやすくなるそうです。

キワニスドールが真っ白でノッペラボウなのは、子ども達が好きな色を塗り、顔や洋服を描いて遊ぶことができるように、という工夫をしているからです。大人でも病院は厭な所です。病気の子ども達にとってはなお更です。治療は苦痛を伴いますし、見知らぬ環境におかれて子ども達は怯えています。

キワニスドールは、痛くて怖い外来での治療や入院生活を少しでも楽しくできたらという、特別な玩具なのです。

## キワニスドールの報道とPR活動

日本地区で初めて、東京キワニスクラブでスタートしたキワニスドールは、2003年にNHKラジオで全国放送され、また雑誌では、日本フィランソロピー協会の機関誌や、2004年には診断と治療社の「チャイルドヘルス」12月号、2006年3月に医療関係専門誌「メディカル朝日」2006年3月号にも掲載されました。

2005年3月20日、「キワニスドール」が読売新聞で紹介され、全国の読者から大きな反響がありました。また、2005年8月27日、キワニスドールが1時間の番組として、BS朝日から全国に放映されました。この放映番組を基に20分間にダイジェストしたPR版を制作し、また、2006年から2008年まで日本小

児科学会や日本小児保健学会でキワニスドールを紹介し、キワニスドールの普及活動に力を入れています。2009年4月4日にはキワニスドールシンポジウムを東芝本社39F会議室にて250名の参加を得て開催、ドールをつくる喜び、看護師、医師、看護教育の立場からドールの使い方の報告があり、現場の生の声を聞く機会を得ました。このときの様子を約16分のダイジェスト版DVDにして、希望の方に差し上げています。キワニスドールの活動は東京キワニスクラブのホームページでも紹介しています。（第2回は、2010年4月17日に開催され、約300名が参加）

<http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>

## キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”（みんな一緒に集まる）に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約90ヶ国、8,000のクラブ、約60万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、

札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田の順に生まれ、現在28のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

社団法人 東京キワニスクラブ 会長 伊藤 康成 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: [tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp](mailto:tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp) URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>